

# 城山エコミュージアム通信

平成28年(2016)3.15 第27号



エコミュージアムとは、エコロジー(生態学)とミュージアム(博物館)の造語で、その地域そのものが、生きた貴重な資料であるという考え方の下に、地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。相模原市城山エコミュージアムは、地域住民主体の活動により資料収集・調査等を行い、資料を現地において保存し、展示し、広く活用することを目的として活動しています

## 自然と共生する高台の住宅地

こうりょう わかばだいじゅうたく  
～ 広陵もりっくと若葉台住宅～

### 地域紹介

若葉台地区



広陵もりっく(学校林)と広陵小学校



広陵もりっくの活動

相模原市緑区若葉台は、1970年代の高度経済成長時に都市近郊住宅地として、総面積約50万㎡の土地に、大よそ950戸、2,500人が緑豊かな自然と共生しながら暮らしています。メイン通路には地区ごとに異なった街路樹を植え、遊歩道を配し、四季折々に変化する街並みはそこに暮らす人達に安らぎを与えてくれます。地区内には、わかば幼稚園や広陵小学校、郵便局、商店街などがあり、橋本駅まで住民の足となる路線バスが通っています。また、地区内にある5つの公園はそれぞれ自然を活かした自由広場と、遊具を備えた子ども広場があり、その名前には、砥石山、かたくり、榛名、谷津、小栗と言う地元の人達に馴染のある名前が付けられ、昔からの地を風化させない工夫もされています。また、地区内には広陵小学校に隣接した学校林「広陵もりっく」があります。ここは開発前の姿のまま残された唯一の森(雑木林)で、広陵小学校ではこの貴重な資源を子ども達の「学びの場・活動の場」して有効に活用しています。子ども達の発案で「広陵もりっく」と名づけられ、学校やPTA、子ども会、地域のボランティアなどによって定期的に整備が行なわれ、子ども達の安全を見守っています。「広陵もりっく」の活動は、全国から代表12校に選ばれ、平成26年8月「全国学校林・子どもサミット」東京大会に於いて、5年生の代表が活動の様子を発表しました。

林内からは、今日もまた元気な子ども達の声が聞こえてきます。子ども達にとって「広陵もりっく」での活動は、卒業してからも貴重な思い出としていつまでも心に刻まれる事でしょう。(塩谷 弘道)



1～3丁目通り



5～6丁目通り



【地域紹介】若葉台地区  
【活動紹介】つどい報告、広田小学校でお話しました 【シリーズ養蚕】カイコの原種 【城山探訪】庚申塔 【城山検定】安産祈願につるすもの等



テーマ:

川尻八幡宮と

# 地域のまつり



～身近なまつりから見えてくる、地域の歴史と暮らし～

2月28日城山公民館にて、第2回城山エコミュージアムのつどいを開催しました。この会は、昨年に続き、城山エコミュージアム運営委員会が日頃の活動と研究成果を市民の皆さんに紹介する場として企画したものです。

冒頭の運営委員長の挨拶に続き、運営委員会から「城山エコミュージアムの紹介」と本年度開催した「エコミュージアムツアーの概要報告」がありました。その後、東京家政学院生活博物館館長小瀬康行先生から本年度のエコミュージアムの活動に対する講評をいただきました。会場内では活動報告の展示も行いました。ポスターの前には人だかりができ活発な質疑応答が交わされました。



活発な質疑応答がありました

その後、講師である市立博物館加藤先生の講演後、参加者からは地域の行事やまつりの形式についての情報を頂きました。講演終了後は樋口副運営委員長の司会のもと活発な質疑応答が行われました。今回のつどいは市内各地から58名の参加をいただき盛会のうちに終了しました。講演会終了後、小瀬先生と加藤先生から城山エコミュージアム活動に対するアドバイスをいただきました。「地域の自然環境、歴史・文化遺産、産業遺産などを現在から過去へさかのぼり史的に捉えるのがエコミュージアムである」お二人からいただいた提言は過去を知り、今を知ることに加えて、それを未来に繋げる活動の大切さを示すものでした。(佐々木 徹)



城山エコミュージアム紹介  
佐々木 徹さん  
城山エコミュージアムの成り立ち、活動内容について紹介しました



城山エコミュージアムツアー紹介  
多羽田 啓子さん  
平成27年度ツアー開催内容についてご紹介しました



東京家政学院大学教授  
生活文化博物館 館長  
小瀬 康行 先生  
ご多忙の中ご出席頂き、活動についてご講評頂きました。ありがとうございました

## 講演の中から

講師：相模原市立博物館 民俗担当学芸員 加藤 隆志 先生



わかりやすくお話していただきました

川尻八幡宮のまつりを考える視点として、『新編相模風土記稿』による若宮八幡宮と春日神社、明治期の神社合祀と資料にみるかつてのまつりの状況について述べられ、『天王祭』の性格と地域的展開・周辺地域の神輿と山車のまつり・県内における民俗分布の境界として津久井地域の位置付けにふれられ、最後に 身近なまつりから見えてくる地域の歴史と暮らしについて、地域に残るさまざまな伝承や資料からフィールドワークを通じて『地域像』を捉え、自らの生活と関連付けて歴史や文化を考え、そしてそれが地域の文化や地勢や歴史など、さまざまな要因によって形成されてきたもので、固定的なものではない点に注意が必要であると結びました。加藤先生、ありがとうございました。(橋本 勝邦)

## 第5回 カイコの祖先「クワコ」(1)

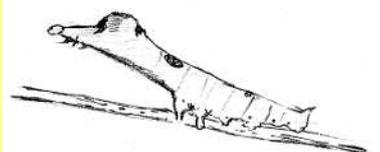
シリーズ

養蚕

カイコの祖先と言われているのがクワコです。中国でクワコを5000年以上前に改良を重ね家畜化し、カイコが作られました。クワコは東アジアに分布し、中国をはじめ日本にも生息しています。卵はクワの枝などに産み付けられ、蚕の卵とそっくりです。幼虫の形もよく似ていますが、体の前のほう(頭と胸)の形がカイコがずんぐりしているのに比べ、クワコは縦に伸びており、新幹線で例えるとカイコが0系ならクワコは700系です。カイコの体色が白いのに比べて、クワコは全体的に茶褐色です。これは捕食者から身を守るために保護色になっているのです。成長したクワコの幼虫はクワの枝につかまり、枝そっくりに擬態している姿が見られます。クワコの幼虫を飼う場合には、カイコのようにふたをしないしていると這い出して脱走し大変なことになります。(続く)(山口 雅之)

クワコ

木の枝に擬態している



カイコ



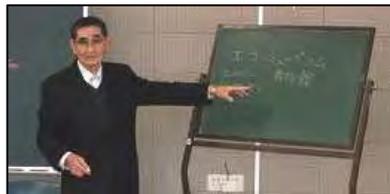


# 広田小学校でお話してきました

～ 6年生に地域を調べることの面白さを紹介～



熱心に聴いていただきました



知ってナットク!  
しろやま



都井沢の観音様(慈眼寺)

## 問題

都井沢にある都井沢の観音様(慈眼寺)では、安産祈願にあるものを吊るします。

さて、それは何でしょうか？

つるし雛  
さるぼぼ  
袋

(出題者: 田中 次雄)

市立広田小学校6年生に招かれ1月20日午後の授業時間に城山エコミュージアムの活動についてお話をする機会がありました。この学年では総合の時間に地域の歴史について調べ、まとめ発表し、残していこうという活動をしています。発表会が終わったあと、どうやって地域の歴史を残していけるのか自分たちにできることは何かを考えていて、その勉強のために地域に根ざした活動をしている城山エコミュージアム運営委員たちの話を聞きたいとの依頼でした。とても熱心な子どもたちの依頼に驚くとともに、少しでもお手伝いできればと4名で伺いました。子どもたちが話してほしいと希望をしていた「エコミュージアムの活動内容や目的」「どんなことを私たち子どもに期待しているか」を考えながら、4名それぞれ活動を始めた動機や興味を持って活動していることなどを話しました。歴史だけでなく、地域の自然やかつての産業だった養蚕についてなどエコミュージアムらしい話になりました。また、これからも地域に興味を持っているいろいろな勉強をしたり、いろいろな人に伝えてほしい、一緒に勉強できるのを楽しみにしていることを伝えました。6年生の皆さんからは「フクロウや蚕の話など今まで知らなかったことを知ることができました。」「貴重なお話をありがとうございました」とうれしい感想をいただきました。(田畑 房枝)



## 城山探訪

### 身近な石造物「庚申塔」

道端にたたずむ石造物の中に、猿が彫られているのを見たことはありませんか？これは「庚申塔」と呼ばれるものです。中国より伝来した道教に由来する庚申信仰に基づいて建てられたもので、多くが庚申講を18回(3年)続けた記念に建立されています。庚申講(庚申待ち)とは、人間の体内にいるといわれる三尸が、庚申の日の夜(60日に1回おとずれる)寝ている間に宿っている人間の悪事を天帝に報告しに行くと言われていたことから、それを避けるために庚申の日の夜には、夜通し眠らないで、天帝や猿田彦神や青面金剛を祀り、読経をしたり宴会したりする風習です。“申”は干支で猿にあたることから、「見ざる、言わざる、聞かざる」の三猿など、猿が石塔に彫られるようになりました。「庚申塔」と一口で言っても、文字だけのもの、仏さまや神さまが彫られたもの、愛嬌のある猿が彫られたものなどがあり、それぞれの表情を楽しんでみてはいかがでしょうか。(齋藤 雄也)



庚申塔(小倉地区)

解説

慈眼寺の安産祈願の「底なし袋」

慈眼寺は近隣の人々からは「都井沢の観音さま」と親しみを込めて呼ばれています。武相観音霊場38番札所（お隣りの中沢の普門寺は25番札所）で12年ごとの卯年のご開帳には多くの巡礼者で賑わいます。（次のご開帳は7年後の平成35年（2023）です）。とりわけ安産守護に霊験あらたかたで、「当地においては難産になるものなし」と語り継がれてきました。今も観音堂の一角には、欠かすことなくいくつもの「底なし袋」かかっています。いつの頃からか定かでないのが残念ですが、38番札所ということから、武相観音霊場が創設された宝暦9年（1759）以降のことと推察されますが、安産（無事出産）は太古の昔から人々の切なる祈りであり、その継続であったと考えたいと思います。安産祈願は日本各地に「底なし袋」をはじめとして、様々な祈りの形が残されています。読者の皆様のご出身地域の安産祈願の形を教えてくださいたいと思います。（田中 次雄）



実際にかけられた底なし袋

しろやまミニ図鑑

春の七草「ホトケノザ」



図A



図B

春の七草のひとつに「仏の座」という植物があります。ホトケノザを植物図鑑などでみるとシソ科オドリコソウ属の2年草で、図Aの植物が掲載されていると思います。この植物は、葉のふちが少しギザギザになって茎をぐるりと囲むようになっていて、この形が仏様が座っている台座の形に似ていることから、ホトケノザと名付けられています。春になると空き地や公園、道端などいろいろな場所で紫がかったピンクの唇形状の花を咲かせる10～30cmぐらいの草丈のこの植物を目にします。しかし、これは食には適していません。春の七草でいう「仏の座」はコオニタビラコといってキク科の2年草で、(図B)ロゼット状に葉が広がる様子が、仏様の台座に使われる開いたハスの花の形に似ていることから「仏の座」といわれています。

早春の田んぼで、地面に這うように(田平子の意)ギザギザの小さな葉を広げ5～10cmぐらいの株からタンポポをうんと小さくしたような一重の黄色い花をつけます。この草の種子は綿毛にならない(風で遠くに飛ばされない)ので、田んぼなどの限られた場所でしかなかなかみることができないでしょう。(文・田畑 房枝/画・多羽田 啓子)

募集

参加メンバー募集中  
性別・年齢・経験不問

地域の魅力を発掘する活動です。趣旨にご賛同いただける方はどなたでも参加可能。ご一緒にはじめませんか？お気軽にお問合せください。

たとえばこんな活動・・・

通信、ホームページづくり等、広報を作ること

地域を散策し自然観察や石造物を探したりする

養蚕の足跡探し 等

地域の養蚕に関する情報も募集しています。



編集後記

今年のエコミュージアムツアーも地域住民の「語り部」にご登場願ひ、地元の人ならではの興味深い話をしていただいた。以前はさほど興味のなかった絵画や音楽も、美術館で実物を見て、あるいはライブ演奏を契機に虜になることがある。実物を見て、触れて、生の話を聞くことができる「エコミュージアムツアー」が地域への理解を深めるための学びのきっかけになればありがたい。(佐々木 徹)

企画/作成：相模原市城山エコミュージアム運営委員会

発行：相模原市立城山公民館

TEL：042-783-8194【直通】

FAX：042-783-1721

ホームページをパソコンで見るとは

相模原市 城山エコミュージアム

検索

相模原市立城山公民館ホームページ

http://www.sagamihara-kng.ed.jp/kouminkan/shiroyama-k/index.html

